

ことばと空間

2	巻頭言		
6	エミリ・ディキンソンと不在のゴシシズム 113 —— <i>I died for beauty</i> における詩と死の時空間、非人称の詩学とロマンティシズム 加藤雄二		ジリアン・ピア著／鈴木聡訳 『未知へのフィールドワーク——ダーウィン以後の文化と科学』 加藤雄二
17	記憶の都市メキシコ 地下恐怖 柳原孝敦	116	山口裕之 編訳 『ベンヤミン・アンソロジー』 西岡あかね
32	語りの文化差に関する検討 ——複数の予備的調査結果を踏まえて 上原泉	118	ロベルト・ボラーニョ著／柳原孝敦、松本健二訳 『野生の探偵たち』(上)(下) 高際裕哉
55	新民叢報第二十三号にみる嘉納治五郎の教育思想 東憲一	121	ギヨーム・デュプラ著／博多かおる訳 『地球のかたちを哲学する』 桑田光平
64	平安初期における日本紀講書 ——中国三史の講書との関わりから 顧姍姍	124	村尾誠一著 『『藤原定家』笠間書院コレクション日本歌人撰011』 黄少光
81	プラトーフ『土台穴』における動物と人間のあいだ 古川哲	127	柴田勝二著 『村上春樹と夏目漱石——二人の国民作家が描いた<日本>』 朴翰彬
91	物語と劇の間で ——『源氏物語』を舞台化して 柴田勝二	129	アントニオ・タブッキ著／和田忠彦、花本知子訳 『他人まかせの自伝——あとづけの詩学』 石井沙和
寄稿		132	ブラーブダー・ユン著／宇戸清治訳 『パンダ』 岡田知子
99	正岡子規の恋歌ノート 村尾誠一		
新刊紹介			
110	ロラン・バルト著／桑田光平訳 『ロラン・バルト 中国旅行ノート』 アトピック・サイト 松浦寿夫	--	総合文化研究所 2010-2011 年度活動報告 編集後記